

【プレゼンテーション資料】

菜の花プロジェクトの概要

菜の花プロジェクトネットワーク

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地

Tel 0748-46-4730 FAX 0748-46-4550

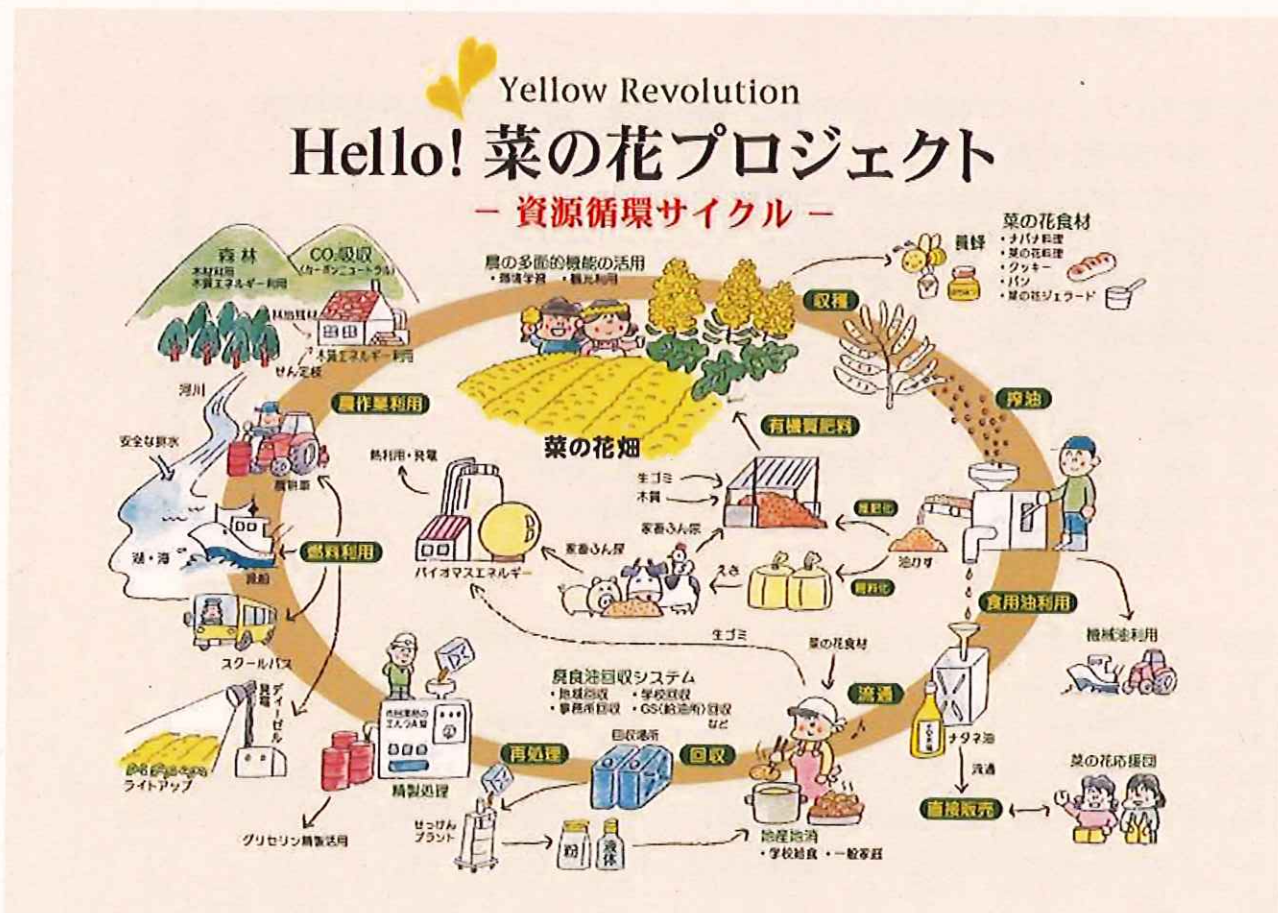
E-mail econavi@mx.biwa.ne.jp

1. 「菜の花プロジェクト」って何？

1) 菜の花プロジェクトの歴史

- ・【第1ステージ(1976～1992)】<水環境再生>
～廃食油を回収し、せっけんへリサイクルする資源循環サイクルづくり～
- ・【第2ステージ(1992～1998)】<エネルギーを創る>
～廃食油の再利用によるBDF(軽油代替燃料)精製と活用への展開～
- ・【第3ステージ(1998～2002)】<農業再生> <菜の花プロジェクトスタート>
～転作田利用による菜の花栽培にまで広げた資源循環サイクルづくり～
- ・そしていま【第4ステージ(2002～)】<食・エネルギーの地産地消>
<国際ネットワーク>
<未来世代との協働>

2) 菜の花プロジェクトの仕組み



3) 菜の花プロジェクトの広がり

- ・47都道府県すべてで、何らかの活動が展開中
- ・「農業振興」「観光振興」「地域資源活用」「資源リサイクル」「環境教育」「地球温暖化防止」「地域のバイオマスエネルギー再評価」「新産業振興」「産官学民のパートナーシップと地域の活性化」等の展開

2. 菜の花プロジェクトの目指すもの

1) 「大量生産・大量消費・大量廃棄」に代わる「21世紀型産業社会」形成

- ・ 20世紀型産業社会の後始末を「大量処理型」で解決するのではなく、地域のことをできるだけ地域で解決していくという「自立分散・資源循環」の21世紀型産業社会のビジョンを住民に具体的に提示していく。
- ・ 問題解決を他人任せにするのではなく、まず自分たちの地域での問題としてとらえ、「問題対処型」ではなく「問題未然防止型」の仕組みを取り組みの中で考える。

2) 「中央主導による地域振興」に代わる「地域イニシアティブによる地域振興」

- ・ 20世紀型の「官僚主導」に代わり、生活の場である「地域」「現場」に足をつけた発想と行動と責任に基づいた「地域イニシアティブによる地域づくり」を進める。
- ・ 地域主導による、21世紀型産業社会の実現に向けての政策のインテグレート（統合）。

3) 概念論ではない「資源循環型社会」の具体的な地域モデルづくり

- ・ 新しい世紀のはじまりの時期にもかかわらず、閉塞感が漂う中で、未来に向かって明るい夢を語ることのできる手応えのある、具体的な地域の未来ビジョンを示す。
- ・ 多様な地域の知恵と行動が反映され、人々の参加自由度が高く、運動の柔軟な広がりや懐の深さを持った地域モデルづくり。

3. 菜の花プロジェクトの可能性（不可欠な「農の多面的機能」活用の具体的展開）

1) 食の安全性の確保

2) 地域にある再生可能エネルギー資源の再評価

3) 農地、里山、森林等の保全・利用

4) 土壌汚染、大気汚染、水質汚染の防止

5) 地球温暖化の防止

6) 地域の総合学習、地域教育

7) 地域コミュニティの再構築

8) 農業の再生、「内発型」の地域産業振興と雇用の創出

9) 地域振興、地域の活性化（ファームステイ、農家レストラン、エコツーリズム 等）

10) 平和的国際貢献

4. 第4ステージ「アグリ・ルネッサンス」（食・エネルギーの地産地消）

1) 菜の花プロジェクトネットワーク

2) 「菜の花サミット」と「サステイナブル・デザイン委員会」

3) バイオマス・ニッポン（一府六省）、国産資源作物の展開（耕作放棄地の解消）

4) 菜の花議員連盟（超党派国会議員連盟）と「菜の花地方議員連盟」

5) 「菜の花マスコミ応援団」、「菜の花学会・楽会」（若者が主役）

5. 菜の花プロジェクトネットワークの国際連携

韓国菜の花プロジェクト、中国(東北地域)菜の花プロジェクト、モンゴル菜の花プロジェクト、ウクライナ菜の花プロジェクト e t c.

2014年10月3日

NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク
代表 藤井 絢子

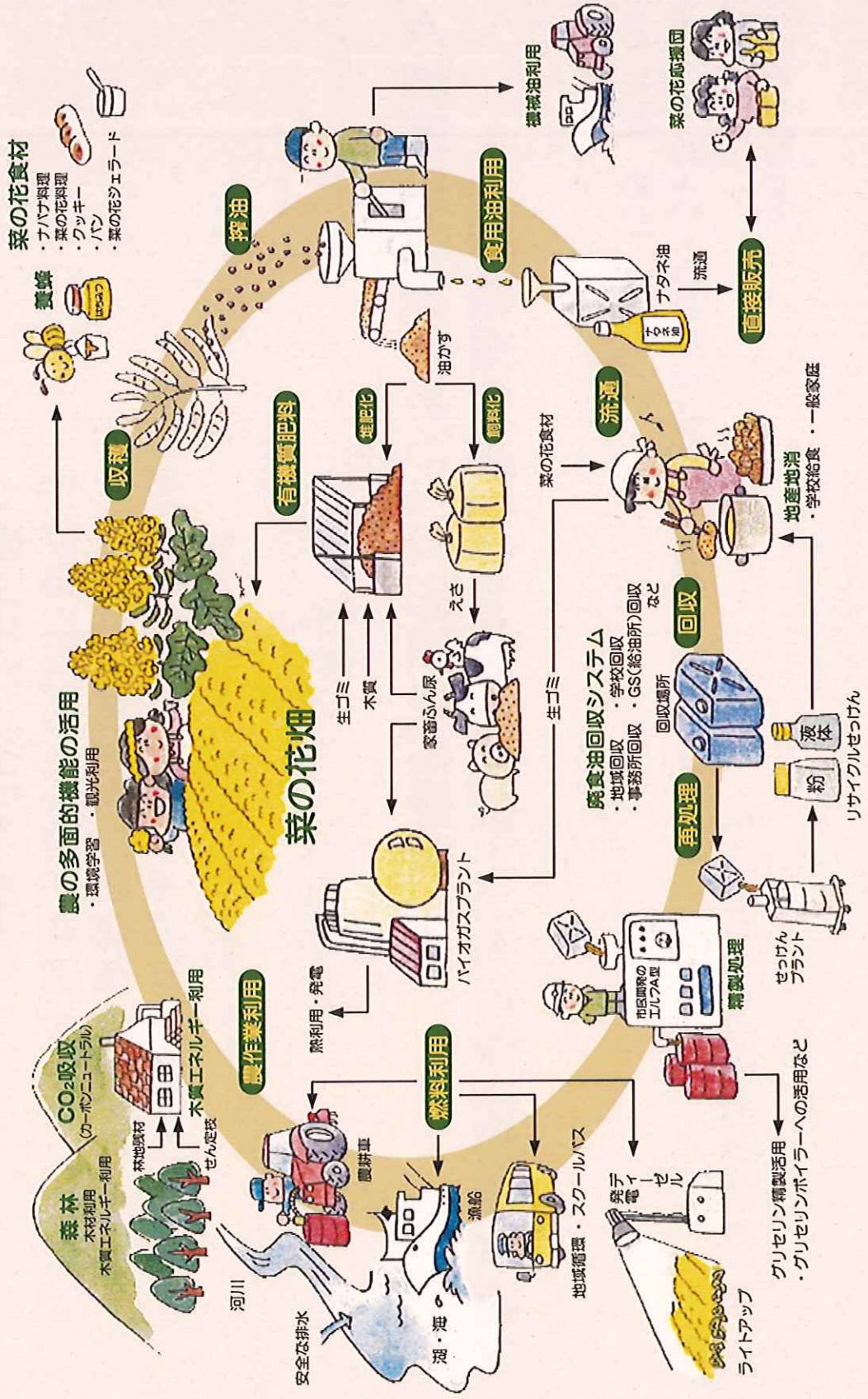
＜廃食用油を事例とした国内でのNPO活動の進展と 国際的な連携および制度設計の提言＞

プレゼンテーション骨子

1. 「菜の花プロジェクト」とは
2. 東日本大震災におけるBDFの活躍
3. 廃食用油の国内状況
4. 廃食用油をめぐる日・韓状況
～法制度の日・韓の相違～
～日本国内循環に変化～
5. アジア3R推進市民ネットワークの経験

菜の花プロジェクト循環サイクル

Power of Circulation



宮城県大崎市千田清掃のとりにくみ①：大林組

大林組 バイオディーゼル燃料供給

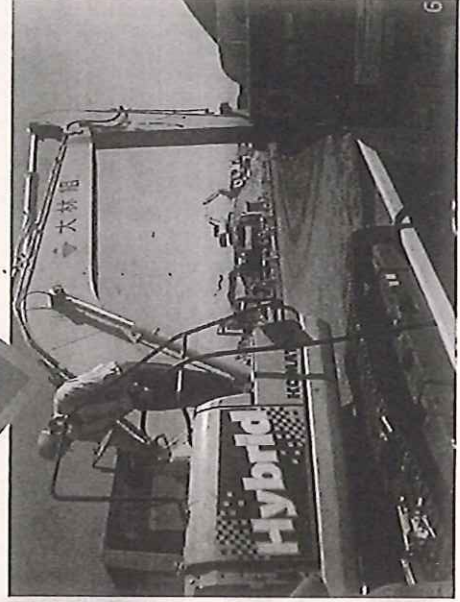
宮城県巨理町災害廃棄物処理現場



建設機械
(コマツ製) 4台
80,000L
B100給油



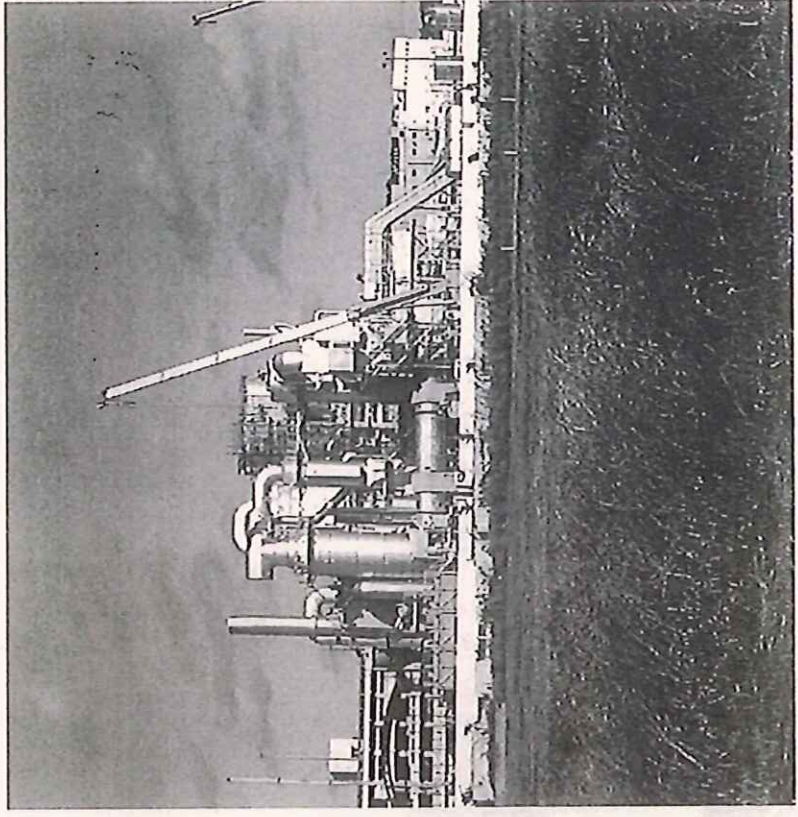
特殊フィルター



宮城県大崎市千田清掃のとりくみ②：大成建設

大成建設 バイオデューゼル燃料供給

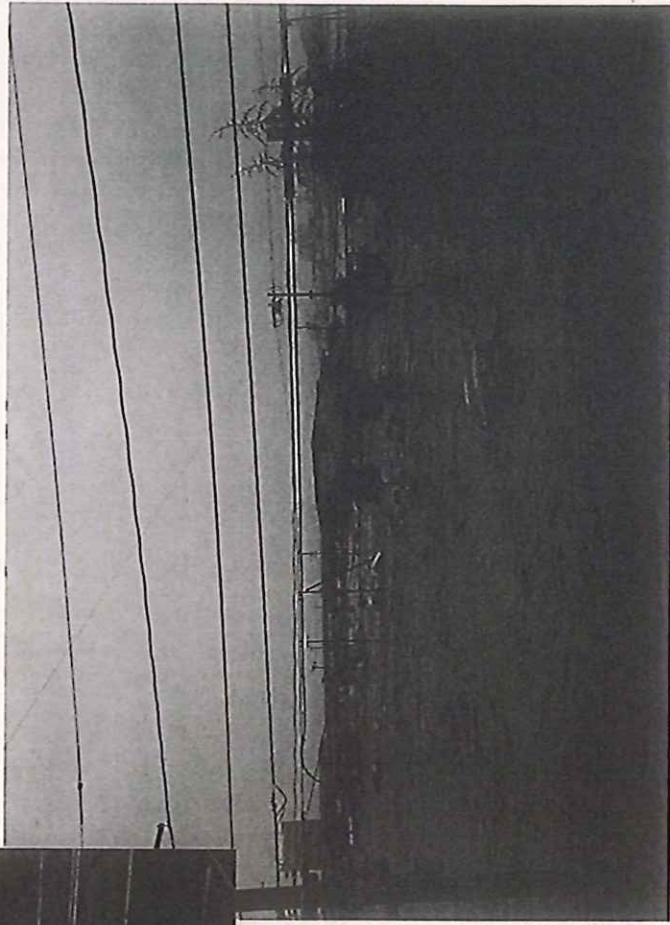
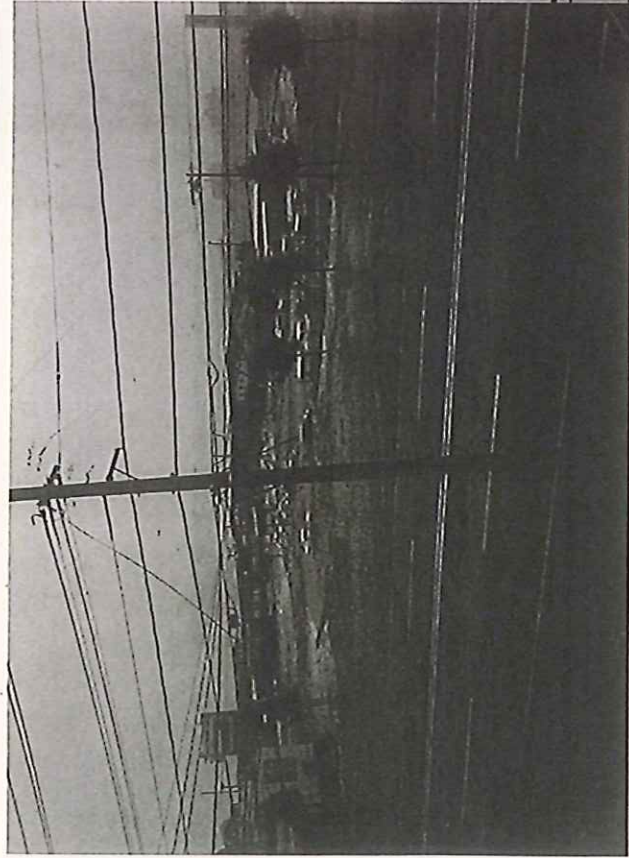
宮城県気仙沼市災害廃棄物処理現場



B5混合経由を地元燃料会社と連携し納入

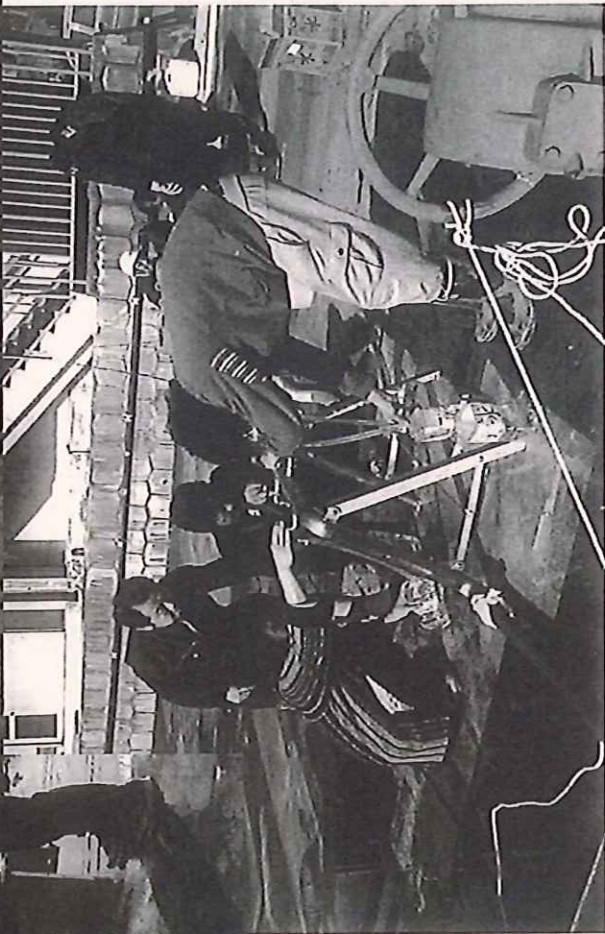
宮城県塩竈市におけるとりくみ①：津波

塩釜魚市場周辺の津波の状況



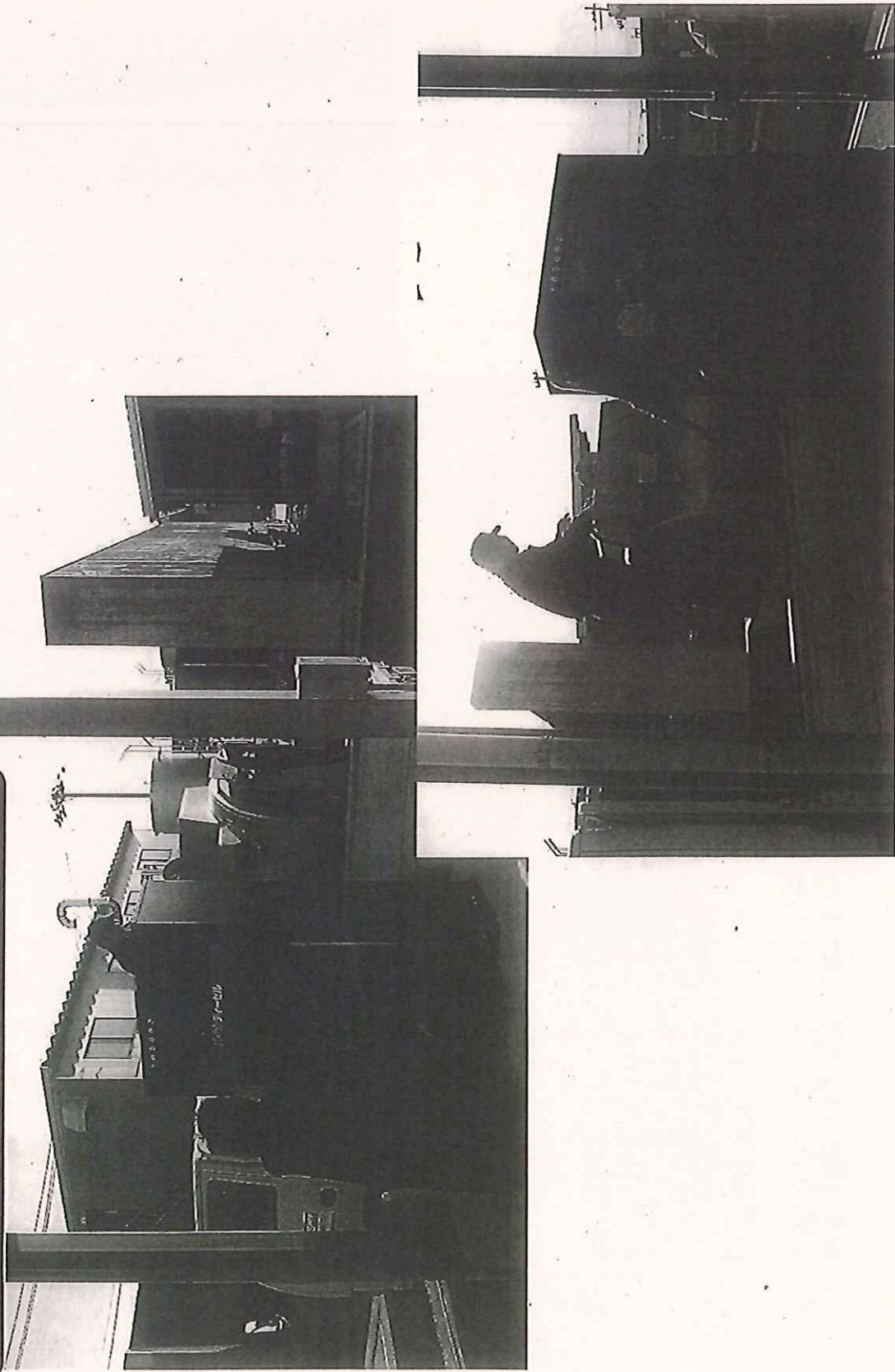
宮城県塩竈市におけるとくみ②：市民への給水

市民への給水作業

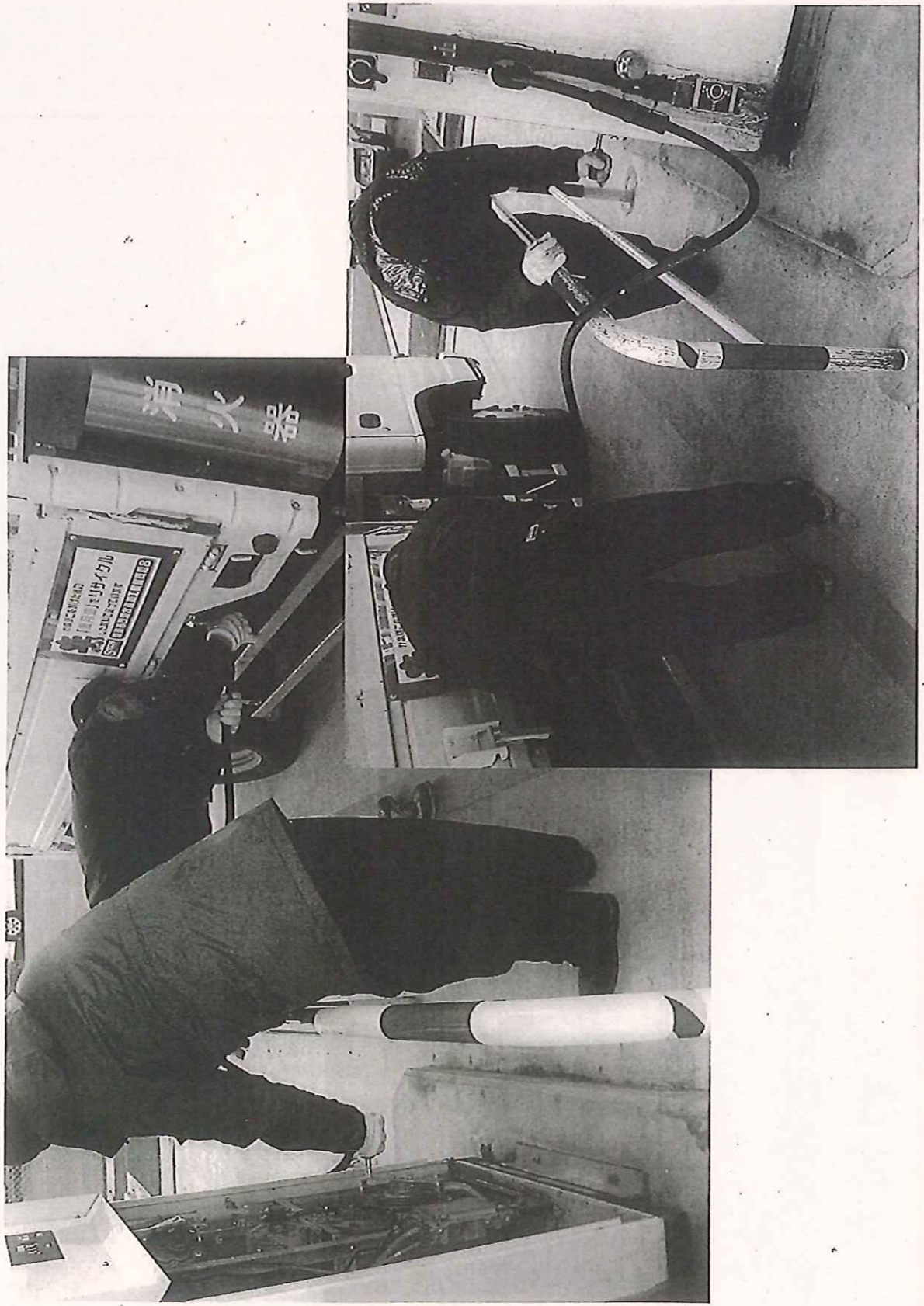


宮城県塩竈市におけるとりくみ③：手動で給油

手動で給油

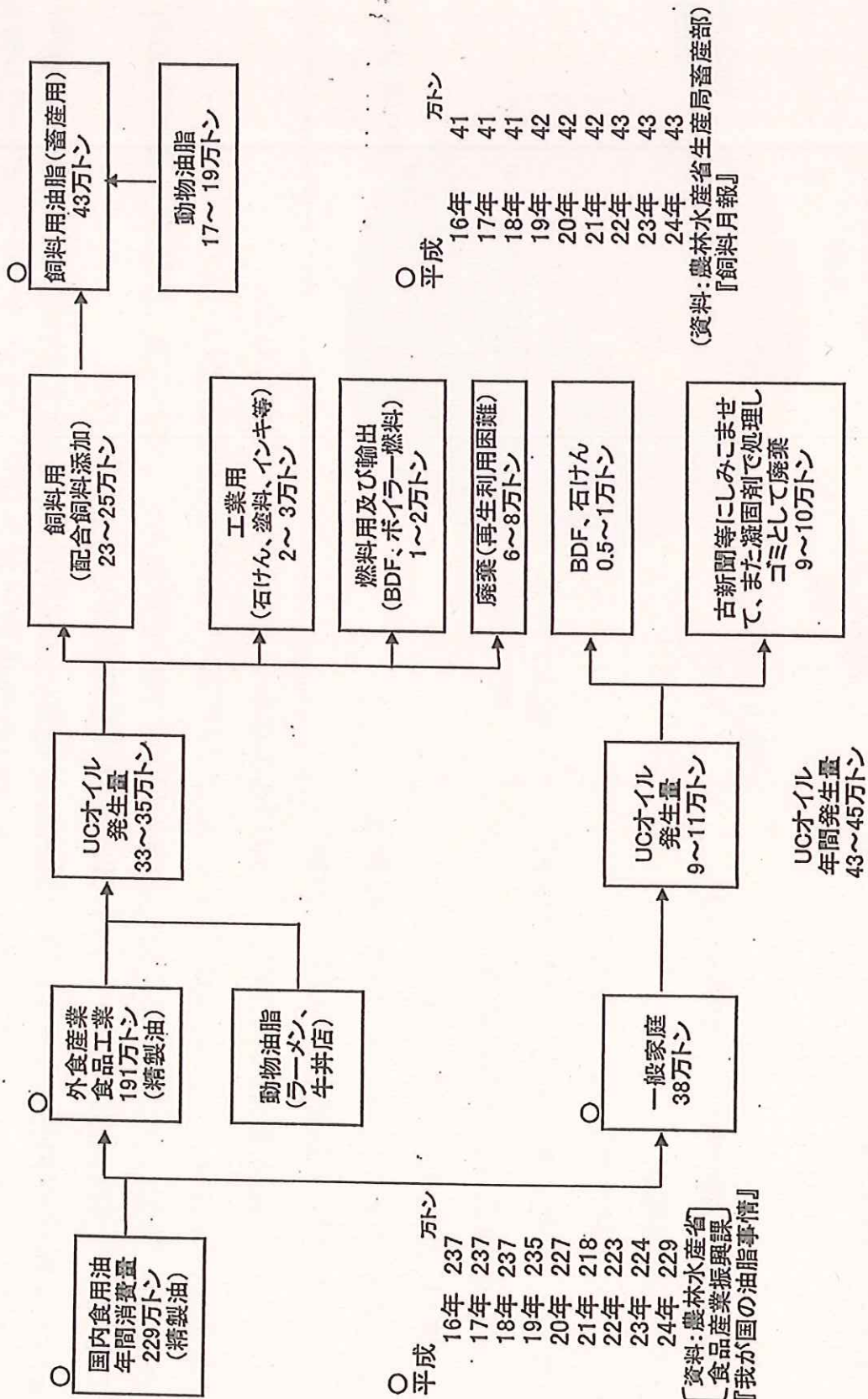


宮城県塩竈市におけるとりくみ④：手動で給油



廃食用油脂の活用状況

UCオイルのリサイクルの流れ図(全国油脂事業協同組合連合会、平成25年版)

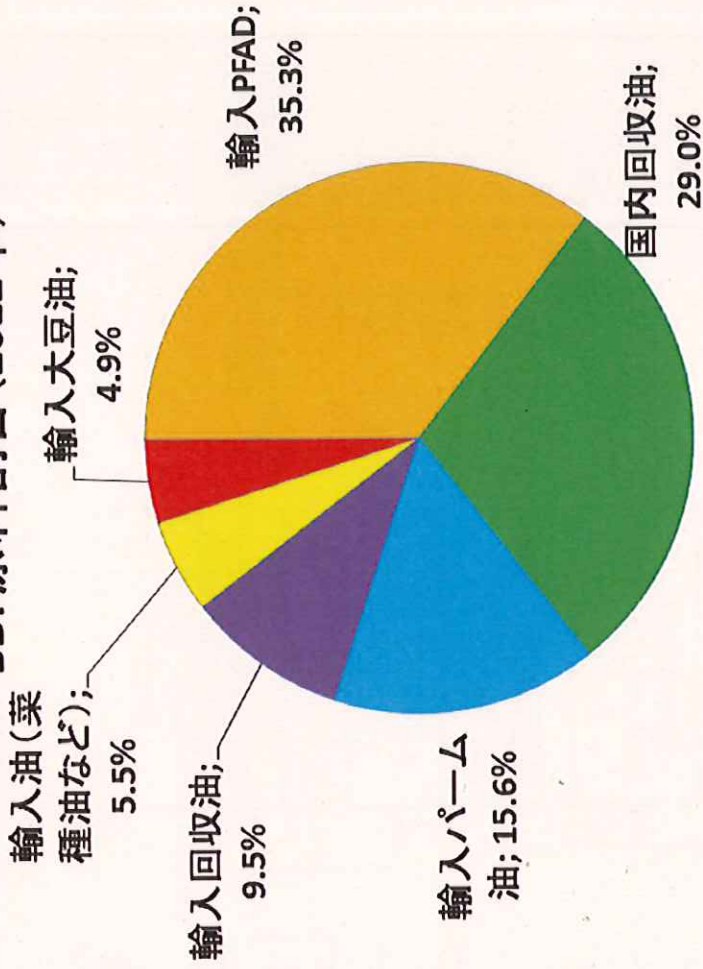


注: ①農林水産省資料(○印)、国内食用油年間消費量、飼料用油脂使用量)及び情報収集等を基に総合的に検討し推計した。
②食品工場等の自社消費分は、UCオイル発生量(33~35万トン)に含まれていない。

韓国の状況①

- 2007年から、液体燃料にバイオ燃料を2%混合する事を義務付（輸入された燃料に関しては対象外）
- 2011年7月、国内で流通する燃料の価格を下げる為、軽油の輸入関税を撤廃した。それに伴い、国内燃料価格が減少し、BDF製造者の採算を圧迫。23社あった製造社が9社にまで減少（製造キャパは約80万MT）
- 2012年4月より、輸入軽油に対しても、2%のバイオ燃料を混合する事を義務化した。
- 混合割合を、2014年より2.5%、2016年より3%、2020年より5%とすることを目標としている。
- 2011年以前、韓国は15万MT/年を超える輸入軽油に対して関税をかけていた為、年間輸入量は約20万MTであったが、関税撤廃以降、一ヶ月で20万MT程度輸入する月も見られた。
- 韓国の年間軽油使用量は1億ガロン（16百万kl）程度。2%BDF混合が義務化されれば、年間32万klのBDFが必要である。2012年のBDF製造量は38.5万MT（原料内訳は図の通り）であり、すでに必要数量を製造している状況である。その為、BDFの輸出を行わない限り、更なる製造量の増加はないだろう。

BDF原料割合(2012年)



韓国の状況②

UCオイルの韓国向け輸出推定数量

UCオイル(廃食用油)等に関する関税輸出分類項目には多種類の油脂が含まれており、正確な輸出数量は確認が難しいが、輸出単価から輸出数量が推定できる。なお、そのなかにはUCオイル・動物油脂混合油脂も推定される。港別輸出も同様理由での推定量。

26年1月	26年2月	26年3月	26年4月	26年5月	26年6月	26年7月	26年8月	26年9月	26年10月	26年11月	26年12月	合計
韓国 4,606,991	韓国 2,947,680	韓国 4,058,802	韓国 3,219,515	韓国 3,219,515	韓国 3,330,211	韓国 4,394,662	韓国 3,693,142	韓国 3,841,529	韓国 1,431,810	韓国 3,407,376	韓国 3,129,834	34,907,394
台湾 44,400	台湾 220,654	台湾 -	台湾 241,789	台湾 14,560	台湾 14,560	台湾 263,374	台湾 44,860	台湾 3,424	台湾 45,380	台湾 243,202	台湾 232,977	2,613,186
25年1月 韓国 1,162,515	25年2月 韓国 3,759,555	25年3月 韓国 3,381,271	25年4月 韓国 4,053,062	25年5月 韓国 1,463,430	25年6月 韓国 3,087,182	25年7月 韓国 2,160,618	25年8月 韓国 3,693,142	25年9月 韓国 3,841,529	25年10月 韓国 1,431,810	25年11月 韓国 3,407,376	25年12月 韓国 3,129,834	25年合計 34,907,394
86,044	278,908	-	256,918	113,827	240,534	164,172	278,217	269,932	105,450	243,202	232,977	2,613,186
74.0	74.2	-	76.0	77.8	77.9	76.0	75.3	70.3	73.6	71.4	74.4	平均74.9
韓国 350,742	韓国 2,906	韓国 301,314	韓国 241,789	韓国 14,560	韓国 14,560	韓国 263,374	韓国 44,860	韓国 3,424	韓国 45,380	韓国 243,202	韓国 232,977	2,613,186
76.1	65.5	74.2	75.1	90.4	79.1	77.2	68.0	75.5	75.5	75.5	74.4	74.9
台湾 2,906	台湾 220,654	台湾 -	台湾 241,789	台湾 14,560	台湾 14,560	台湾 263,374	台湾 44,860	台湾 3,424	台湾 45,380	台湾 243,202	台湾 232,977	2,613,186
65.5	74.9	-	75.1	90.4	79.1	77.2	68.0	75.5	75.5	75.5	74.4	74.9

7月分UCオイル推定港別輸出数量

数量(キロ)	価格(千円)	キロ価格(円)	25年7月	数量(キロ)	価格(千円)	キロ価格(円)
992,520	80,287	80.9	東京	872,873	63,305	72.5
2,423,447	182,606	75.3	横浜	1,044,145	81,401	78.0
165,140	13,709	83.0	名古屋	18,020	1,165	64.7
19,360	1,328	68.6	神戸	-	-	-
-	-	-	福山	-	-	-
-	-	-	大阪	-	-	-
18,630	1,363	73.2	門司	-	-	-
-	-	-	大分	-	-	-
504,145	38,058	75.5	志布志	-	-	-
62,700	4,608	73.5	吉小牧	203,280	15,932	78.4
42,300	3,108	73.5	-	-	-	-
104,250	7,790	74.7	石狩	-	-	-
221,230	15,685	70.9	沖繩	19,450	1,309	67.3
-	-	-	秋田	63,980	4,059	63.4
-	-	-	石狩	-	-	-
-	-	-	沖繩	-	-	-
44,400	2,949	66.4	-	-	-	-

韓国の状況③

4～6月渡し飼料用油脂据え置き 韓国向け輸出拡大続く

4～6月渡し全農向け飼料用油脂は据え置きで決まった。この結果、関東、東北地区はYG(動物系)級でキロ78円、YGL(植物系)級で同73円中心になったものと見られる。

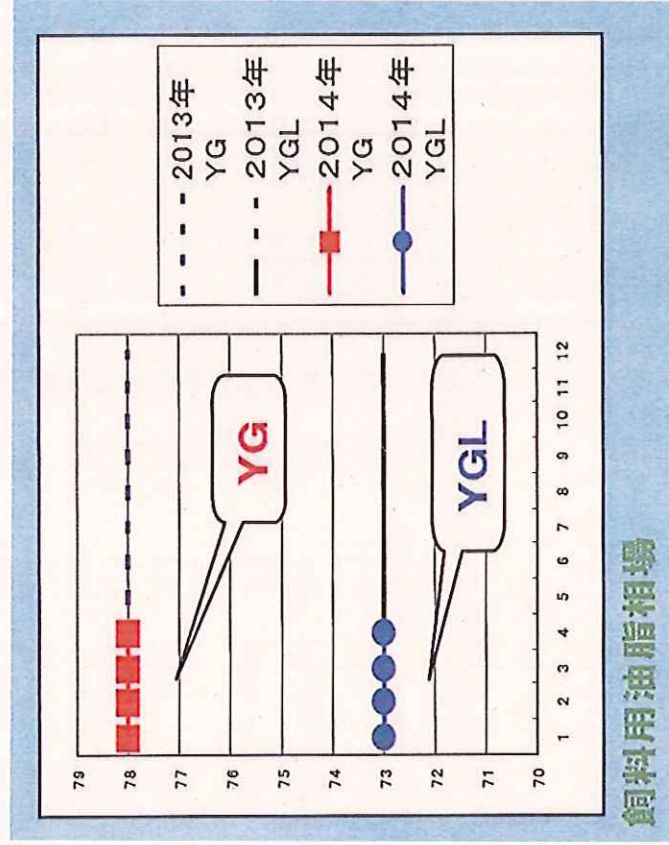
1月の配合飼料における飼料用油脂の添加率は1.69%で前月より0.02%増えた。しかし数量的には3805トン少なかつた。数量的には昨年10月以降前年同月割れが続く。今回の添加率増加で底打ちと喜ぶことはできない。「市場は縮小均衡が続く」(商社筋)との見方が有力だ。

廃食用油の価格は昨年初頭以来1年以上にわたって横這いが続く。需要は緩みぎみだ。1つには飼料原料として競合するトウモロコシが、昨年11月以来割安な輸入品が到着し、その配合が増えた結果、飼料油脂の添加率を落としている。昨年1.8%でほぼ安定していた添加率は12月に1.6%と急減した。1月も1.7%弱にとどまった。0.1%の添加率落ち込み

は油脂の年間数量に換算して2万トン強の消費減退につながっている。国内で28万トンほどと推計されている。底の浅い廃食用油の需給バランスにとっては無視できない規模だ。

一方で韓国向けの2号油輸出はあいかわらず活発だ。「雑油脂」の韓国向け輸出量は、2013年は前年対比67%増の3万5000トンほどだったが、今年1月も4600トン、2月は2950トンで、1～2月累計が7555トン、前年同期比53%とあいかわらず大幅に増え続けている。

今年後半にエル・ニーニョ現象が実際に起きれば油脂相場は様変わりしそうだ。油脂体系の底辺にある廃食用油相場も要注意といえる。



UCオイルかわら版(2014年春号)

アジア3R推進市民ネットワークの経験

- 日本・マレーシア・シンガポール・ヴェトナム・インドネシアのNGO対話から
- NGOの連携で広げよう！コミュニティを活かすバイオマス活用～堆肥からエネルギーまで～

(2014年2月 インドネシア・スラバヤ大会)



近年のアジアにおける急激な経済成長に伴う「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の生活様式によって、アジアの市民はともに廃棄物をめぐる問題に直面しています。

アジア3R推進市民ネットワークは、日本とアジア域内の市民と共に、くらしや地域での3R実践の重要性を共有し、政府や企業とも協働しながら持続可能な循環型社会の構築をめざします。